

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会  
令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日）  
事業計画書

1. はじめに

日本連盟は本年創立100周年を迎え、これを機に最重点施策「スカウト活動をより多くの仲間に提供します」、成果目標「2023年3月末日までに加盟登録人数83,000人以上を目指します」と掲げました。

これを受けて京都連盟は重点施策「スカウト活動をより多くの仲間に」、最重点目標「わくわく自然体験活動をすべての団で取り組もう」として、各団の支援を強化する活動方針を策定しました。

今年度、京都連盟は55こ団の加盟により構成されていますが、この団とは青少年に対してスカウト教育を実施する単位であり、スカウト運動存続の核であります。「団は家族なり」と言い古されてきたように、青少年に無償の愛をそそぐ、有志による成人の支援によって成り立ってきました。また、団委員長がPTA会長や町内会長を務める例も多く、地域の教育力の要となって活躍する人材も輩出してきました。

団が健康に維持発展できないことは、すなわち家族・地域の崩壊の前触れと言っても過言ではありません。何とかして団を存続させようとする努力に、的を絞った支援が喫緊の課題です。

一方、日本連盟創立100周年の記念事業の中でも「第18回日本スカウトジャンボリー」は少年の夢を掻き立ててきた歴史ある大会です。今回は異例の分散開催となりましたが、改めて自分の住む地域を見つめ直す機会とされています。

団は隊によって構成され、隊は班、班は一人一人の自発活動によって展開されます。新たな仲間を迎えてもそれを上回る数のスカウトが中途退団しては、スカウト数の減少は止められません。指導者養成、とくに青年層の活力を引き立てる仕組み作りも課題です。

「そなえよつねに」を身につけた愉快的スカウトたちが「日日の善行」によって、地域社会を明るくすることは、京都の町づくり、人づくりに貢献することとなり、本会維持会員の皆様のご篤志にお応えできるものと信じております。

次のそれぞれの事業ごとに計画を策定し実行してまいります。

- (1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業
- (2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業
- (3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業
- (4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のため共催事業

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業

2. 事業計画の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体

(イ) 助成の趣旨・用途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、スカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ロ) 事業予算

事業費として、1,800千円を見込む。

日本ボーイスカウト京都連盟（以下、「京都連盟」という。）の令和4年度事業費予算のうち、進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費等に必要となる事業費、および第18回日本スカウトジャンボリーに対して助成する予定である。

(ハ) 助成対象者からの助成申請及び実績報告

助成対象者からは書面による助成申請（事業の収支予算及び事業の実施概要）を受け、書面による実績結果（事業の収支決算及び事業の実施状況）を受ける。なお、助成申請及び実績報告は、助成対象者の組織的な機関決定を経たものであることを条件とする。

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町 27 番地

（当法人所有：山林 22,559 平方メートル、原野 521 平方メートル）

(イ) 体験活動の運営主体

日本ボーイスカウト京都連盟

(ロ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(ハ) 広河原野営場は、京都北山の自然を堪能できる拠点として、またボーイスカウトが目指すハイアドベンチャーの基地として、活用の方法を紹介し、利用者増を目指す。

(ニ) 事業予算

事業費として、50千円を見込む。

整備委託・修繕等に助成する予定である。

(3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業：「連携」

(ア) 趣旨

熱意ある指導者の育成は、喫緊の課題である。その人材を発掘し育成することはスカウ

ト運動の普及に欠かせない。

(f) 連携の方法

大学生等から希望者を選抜し、登録費等の一部を補助する。定期的に報告を受けその助言によって指導者育成とする。

(g) 予算

事業費（普及宣伝費）として、50千円を見込む。

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業：「イベント」

ボーイスカウトが主催する様々な行事が、参加者も主催者もワクワクする魅力ある活動であるか、またスカウト教育が目指す方向で成果があるかについて、外部の視点で評価し、支援の意義を高めていく。

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

ボーイスカウトを対象に海外キャンプへの派遣、海外スカウトのホームステイ受入、国際協カプロジェクトの派遣実施等を予定している。

(イ) 社会に役立つ事業活動支援

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会、全国車いす駅伝競走大会、視覚障害者マラソン 京都大会の沿道整理奉仕

防災意識の社会的な高まりに応じて、日本連盟が勧める「全国防災キャラバン」の京都会場を、地区主催で府内各地で開催する。

多くの地道な奉仕活動により大会を支えている事実を、マスコミ報道を通じてクローズアップさせる。

(ウ) 環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動、京都市「まち美化運動」に参加

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業：「広報」

ホームページと公式LINEのアクセス数が増えるよう、積極的に更新を図る。

(ア) ホームページと公式LINEの充実により、組織内外のコミュニケーションを促進する。

① 団や地区主催の催しで、一般の子どもや保護者が参加可能な「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」「スカウト体験と説明会」「ビーバーランド」「カブラリー」等、およびスカウトの日（全国一斉に清掃などの奉仕活動を実施する）等について、ホームページ等にて告知し、地域の青少年の参加を促す。

② ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、ならびに不特定多数の方々に対して、ホームページ等を通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行う。

③ ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員、および潜在的な維持会員に対して、ホームページ等を通じて、会費の協力を依頼する。

④ OBの復帰受け皿としての「サポーター制度」を確立し、ホームページ等を通じて公

募する。

(1)事業予算

事業費として、396千円（ホームページ運営改革費）を見込む。

以 上